

申1号 JR東労組新幹線協議会「第7回定期委員会」発言等に基づく申し入れ交渉 その7

5. 熱中症対策における社員へのフォロー及び熱中症の疑いがある場合は確実な対応を行うこと

回答：引き続き、状況に応じて適切に対応していく考えである。

《組合》現在行っている対策は何か。

《会社》厚生労働省からの規則に則り実施している。具体的には熱中症の恐れがあることを認めたときの体制の整備、手順を定める、そして周知する。また、設備的にはスポットクーラー、空調服、冷風機の設置、経口補水液、瞬間冷却パックなどの配備している。

《組合》本人が大丈夫だと思っても重症化しているケースが増えている。普段から重症化しない環境の整備は大切だと考えている。今後その他に何か改善の検討をしているものはあるか。

《会社》設備に関しては大掛かりなものはないが、スポットクーラーを増やすなどしているが、猛暑はこれからも続くので引き続き取り組む。

《組合》特に車両センターや駅構内などで就業場所の気温が40℃以上になるような時があり、非常に過酷な状況の中で仕事をしている現状がある。そういった中で早めに休めるような環境整備を実施をしていくことが重要だと思っている。乗務員など代替が必要になる場合、それをちゃんと申告できるような環境を整えていく必要があるという現場の声もある。統括本部としても現場と連携しながら進めていただきたい。

《会社》社員が体調が悪いと申告できる環境は非常に大事だと考えている。その為に日頃から管理者と社員がコミュニケーションを取れる環境を作っていく事が重要だと思う。職場環境を変えていく事も非常に大切である。優先順位をつけて熱中症の対策については今後も進めていきたい。

《組合》持病などにより熱中症対策のリスクが高まると聞いたことがある。これに関してどうか。

《会社》今年度の熱中症を発症した方の中に持病を持っている方がいた。リスク管理のためにも持病があるときは管理者に事前に知らせてほしい。

《組合》車掌室の環境が悪い。冬寒く、夏暑い。モニターが付いていない側が特に暑い。改善できないだろうか。改造なども検討してほしい。

《会社》すぐに車両の改造をすることは難しい。もし熱中症のリスクを感じたら、別の箇所にいったん退避することもやぶさかではない。また次期の車両などの設計時に意見を言っていきたい。

《組合》昨今の状況より、一人一人の熱中症に対する意識が高くなっている。しかし、個人で予防してもしきれないところはある。建物自体の改良など考えていることはあるか。

《会社》車両センター自体のリニューアルという話はある。勇翔2034にも職場環境改善ということも書いてある。働きやすい職場環境を作っていく。

安全で働きやすい職場環境の実現を目指し、組合員の声を結集しよう！